

成果の説明書

(氏名) 名和賢美	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>2015年度に最も力を注いだのは、昨年度に引き続き、「論理的表現力と批判的思考力を主軸とした市民教育プログラム構築に向けた調査研究」であり、関連する教育研究の成果および事業の概要は、以下の通りである。</p> <p>(1) 初等中等教育での教育研究</p> <p>① 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1学年全員への作文指導 (5月29日) 附属高1年生が高経大見学時に、「論理的な文章の書き方：言いたいことを分かりやすく伝える基本の型」という講義を実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎についての理解促進を図った。附属高スーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。</p> <p>② 高崎市立高崎経済大学附属高等学校1学年オナークラスへの「経大生による作文指導講座」の開催 (6月9日、16日、23日) 自らが担当する「社会学Ⅰ」や前年度に新設した「日本語リテラシーⅠ」を履修して高い論理的表現力を身につけた高経大生が、附属高1年オナークラス生徒に少人数制で型作文を指導するという企画であり、今年で5回目の実施。大学生16名のきめ細やかな指導により、生徒70名の論理的表現力を大幅に高める一助となる。附属高スーパー・グローバル・ハイスクール事業の一環。</p> <p>③ 高崎市立北部小学校6年生全員への作文指導 (10月14日) 地域貢献も兼ねて、校区内にある小学校6年生55名を高経大に招待し、「苦手な作文の攻略法：読みやすい文章の書き方」という講義を実施。事前課題と事後課題も課し、論理的表現の基礎についての理解促進を図ると同時に、当日はキャンパス見学も行い、大学の雰囲気を見学が体感する機会にもなった。</p> <p>(2) 高等教育での教育研究</p> <p>① 経済学部教養教育委員会日本語部会の部会長 (通年) 経済学部では2014年度より1年次生の批判的思考・論理的表現の汎用力の育成を目指す導入科目として日本語リテラシー科目を新設開講したが、本科目の授業内容の検討や担当者の選定などを逐条審議する部会を定期的に主宰した。</p> <p>② 平成27年度高崎経済大学特別調査研究「初年次必修科目における汎用性のある読解指導法の考察」の研究代表者 (6月～3月末) 上述した日本語リテラシー科目のさらなる充実を目指し、本科目での読み方指導法の改善を図ることを主目的とした共同研究である。研究代表者として、科目担当を集めた研究会を開催し具体的指導法を協議した上で、その成果の一部等として以下の報告書を編集した。 『日本語リテラシーと大学教育』(2016年3月) なお、同報告書では本科目の書き方指導に関連する以下の論文を執筆した。 「型作文定着度の検証」</p>	

(3) 日本政治学会年報 2016- I 号編集委員会の編集委員 (通年)

「政治と教育」を特集テーマとする『年報政治学』の編集委員として、編集委員会に定期的に参加し、テーマへの理解を深めた。同委員会第4回(2015年9月26日)では、これまでの研究成果を報告し、市民教育としての論理的表現力と批判的思考力との相乗効果について議論を深め、その後、以下の論文を執筆した。

「型作文と型発問から始まる市民教育プログラム構築への挑戦：論理的表現力と批判的思考力の教育相乗効果を目指して」『年報政治学 2016- I 政治と教育』(2016年6月刊行予定)。

(4) 科学研究費基盤研究(B)「ポスト3・11的危機から見る<理性><欲求><市民社会>の再審」の研究分担者(通年)

「民主主義と日本社会への視座」班のメンバーとして、研究会に参加して課題に関する理解を深めた上で、以下の論文を執筆した。

「ギリシア・ローマの弁論術を受け継ぐ市民教育の可能性」平子友長・鈴木宗徳ほか編『危機に対峙する思考』梓書房、487-503頁(2016年1月)。

2 その他の事項

(1) 日本政治学会誌『年報政治学』公募論文の査読2編(11月中旬～1月中旬)

(2) 経済学部佐々木茂ゼミ3年生製品開発班に対して「関東学生マーケティング大会」提出論文への論文構成等に関わる助言(10月)

3 次年度以降の計画・抱負

前年度と同一テーマが、最重要課題となる。具体的には、以下の通りである。

まず、初等中等教育での教育研究では、附属高との高大連携事業を継続。小学生への指導も継続実現を目指す。いずれにおいても、継続してきた論理的表現力の指導のみならず、批判的思考力の涵養も指導内容に加えることを検討したい。

次に、高等教育での教育研究では、部会長を継続し3年目を迎える日本語リテラシー科目の充実に努める。

また、市民教育論以外にも、政治思想研究において古代ギリシア人のアジア観に関する研究を進め、日本政治学会研究大会の場で発表する予定である。